

「線から面へ
団地内遊歩道を活かして憩いと緑のサークルをつくる」



みんなで遊べる憩いのサークルイメージ



少人数で集まれる憩いのサークルイメージ

現況

交通公園から三角地、ゲート周辺にある遊歩道は低木や樹々に囲まれ散歩が楽しくなるような道で、他の団地にはない非常に魅力的な場所だと感じました。駐車が街区周辺に配置されていることもあり、中央地区には多くの魅力的な遊歩道があります。自然が多い左近山団地を見てこれらに住む若い人のターゲットは緑が好きな人を引込むべきだと考えました。

魅力的な遊歩道と広場の計画

中央地区広域にわたるこの遊歩道に面してつろぐことができたり、遊ぶことができたり、食事をするのができたり、野菜や花を育てることができるような多世代が利用可能な広場をつくり、自然豊かな外部空間のある団地としての価値を高めます。

中央地区内の遊歩道と緑の分布イメージ（現状）



交通公園から三角地、ゲート周辺をはじめ中央地区には緑に囲まれた遊歩道があります。

中央地区内の遊歩道と広場の緑の分布イメージ（提案）



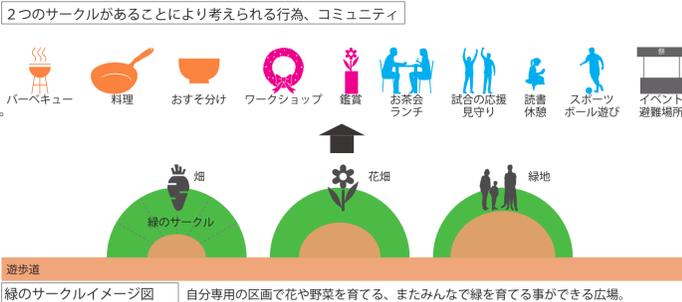
遊歩道に面して2つの広場を一体的に計画します。

2つの広場の提案

- ① 遊歩道に面して使い方に合わせた大小様々な半円状の広場をつくることを提案します。この広場を「憩いのサークル」と呼びます。
- ② 遊歩道の周囲に緑があるように、「憩いのサークル」の周囲に緑や花や野菜等を住民が育てることができる場所をつくります。これを「緑のサークル」と呼びます。

2つのサークルを計画する事で多世代の交流やコミュニティ活性化をうながす契機をつくり出します。

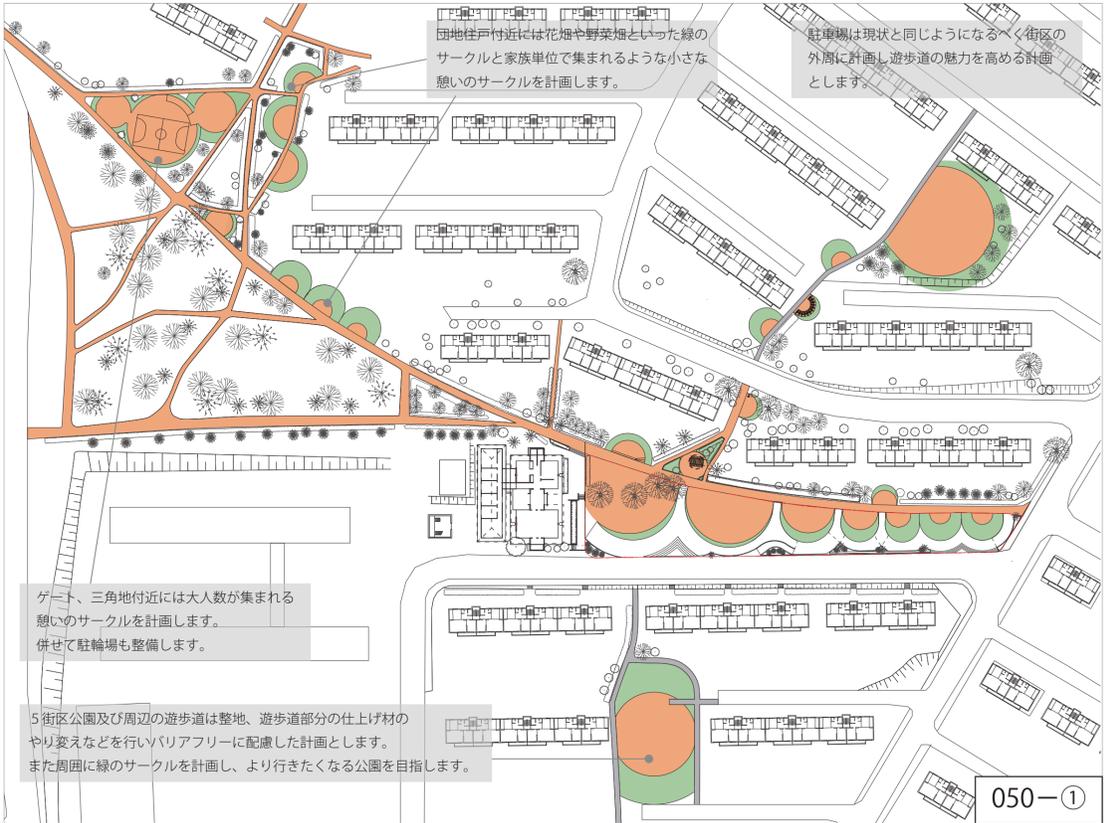
- 例えば、
- 例1) 緑のサークルで育てた野菜を友人と憩いのサークルでバーベキューができる。憩いのサークルで行われる納涼祭などで団地内の人に振舞う事もできる。
- 例2) 緑のサークルで育てた花を憩いのサークルでフラワーワークショップができる。集会所に花を飾ったりすることもできる。
- 例3) みんなで育てた緑は憩いのサークルを利用する際に観賞用として、芝を育てれば子どもたちが憩いのサークルで遊び親が緑のサークルで見守りをしたり応援ができる場所となる。



中央地区憩いのサークルと緑のサークルの計画

外部空間改善として、中央地区に憩いと緑の2つのサークルを計画します。1期整備地区の他に、住戸の近くには畑ができる緑のサークルと少人数で集まれるような憩いのサークルを計画し、ゲート、三角地付近には大人数が集まれる憩いのサークルを計画します。

憩いのサークルと緑のサークル配置イメージ図



団地住戸付近には花畑や野菜畑といった緑のサークルと家族単位で集まれるような小さな憩いのサークルを計画します。

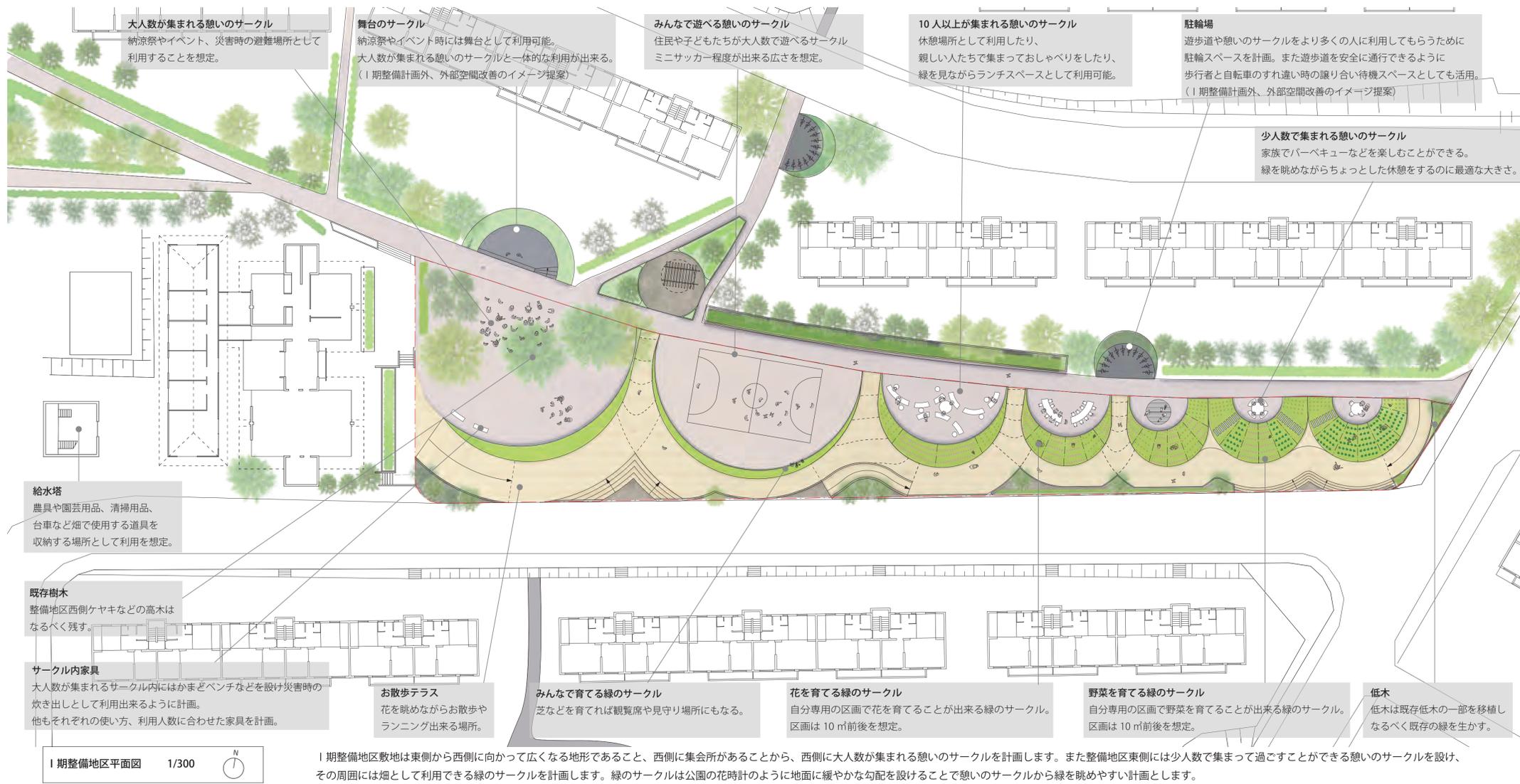
駐車場は現状と同じようになるべく街区の外周に計画し遊歩道の魅力を高める計画とします。

ゲート、三角地付近には大人数が集まれる憩いのサークルを計画します。併せて駐輪場も整備します。

5街区公園及び周辺の遊歩道は整地、遊歩道部分の仕上げ材のやり変えなどを行いバリアフリーに配慮した計画とします。また周囲に緑のサークルを計画し、より行きたくなる公園を目指します。



中央地区内の魅力的な遊歩道



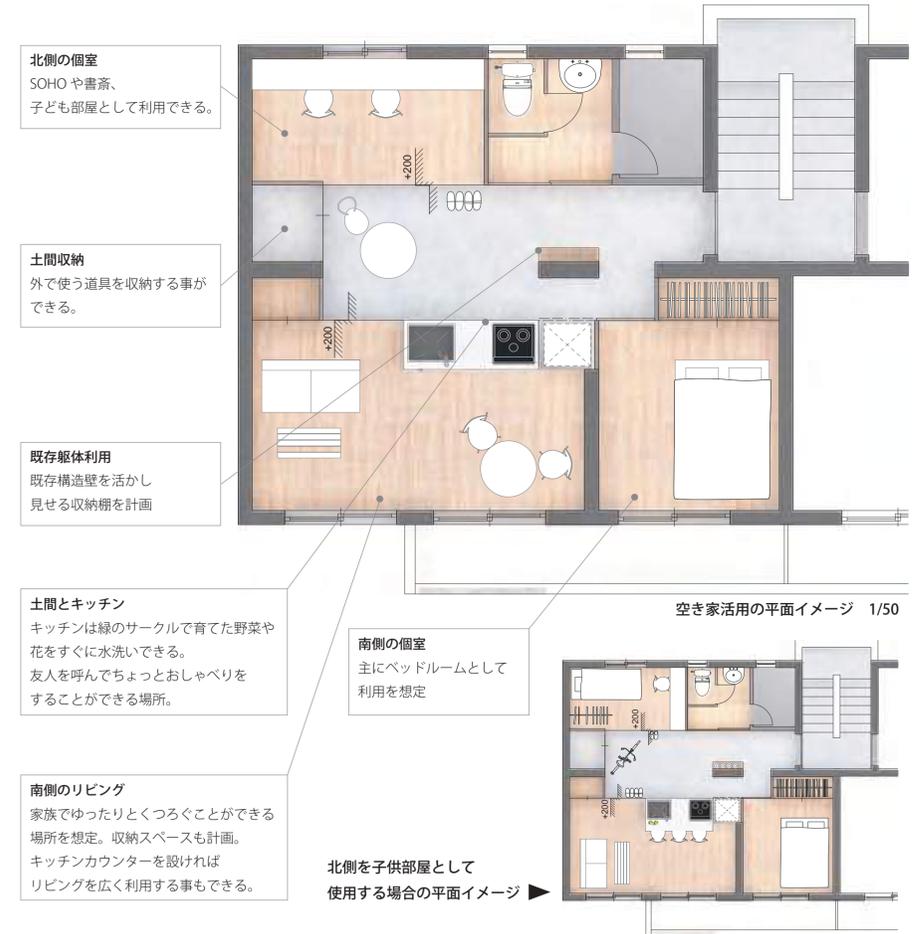
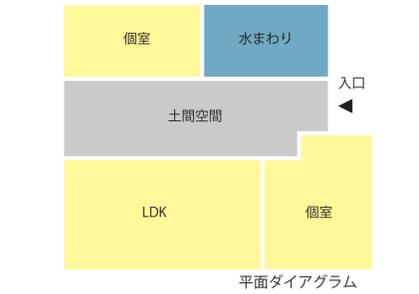
空き家活用のイメージ

2つのサークルで行われる行為を誘発するため住まいは下足で使える場所、土間のような場所を住戸の真中に計画します。この土間にはバーベキューセットや外で遊ぶ道具を置くことが出来、収納する場所も備え、キッチンを下足のまま利用できるように配置することで採れた野菜や花を家に帰ってすぐに水洗いできる提案とします。

真中に土間を設けることで南側の部屋と北側の部屋を区画することができ、南側の部屋をプライベートな空間として、北側をSOHOやアトリエ、書斎等仕事の空間として、公私を分けることができる提案です。また北側の部屋は子どもが成長した際に子ども部屋としても使用できます。

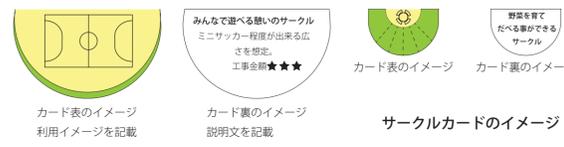
南北の部屋の床レベルは既存床レベルより上げることで、土間の土汚れを持ち込まないこと他に既存躯体にコア抜き等せず床下内でキッチンの給排水配管を通し、断熱材・防振材の敷設による断熱、防音性能の向上にもつながると考えています。

このように真中に土間を設けることで団地内サークルと関係性をもたせると共に、家をSOHOとして利用したい方や、在宅勤務をしながら子育てをしたい若い世代に向けた住まいの計画とします。

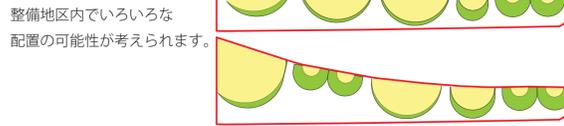


ワークショップ

いろいろな大きさの憩いのサークルと緑のサークルの形をしたカードをつくり、住民の方とサークルの配置や大きさについて実際にカードを敷地においてみることで、設計の段階で一緒に使い方、運用方法を考える事ができ、整備計画の将来像を共有をすることができます。



カード配置の組み合わせ例



工事費概算

予算内での実現のため、整備地区内実測調査を行い下記項目の中にある造成工事を減らすなどの調整をして、なるべくコストを抑えるように努めます。その他に設計段階で予算を超えた場合、各項目の仕様を再度見直し適切にコスト削減に努めます。

工事費	万円
憩いのサークル工事一式	1,200
緑のサークル工事一式	850
整備内その他舗装工事一式	1,190
植栽工事一式	150
造作家具・備品工事一式	500
整備地区内解体・整地・造成工事一式	1,100
合計	4990